

取扱説明書

このたびは本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。この取扱説明書には、安全に使用していただくための要点を記してありますので、ご使用前に必ずよくお読みになり、正しくご使用ください。

お読みになった後は、いつでも読める場所に保管してください。また、本書を汚損したり紛失した場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、大切に保管してください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や、機械に貼られた⚠の表示のあるラベルは、人身事故等の危険が考えられる重要な項目です。よくお読みになり、必ずお守りください。なお、⚠の表示のあるラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い求めの販売店にご注文いただき、必ず所定の位置にお貼りください。

本書に記載した⚠の表示のある注意事項や、機械に貼られた⚠の表示のあるラベルでは、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について、次のように3段階に分けて表示しています。

- ⚠危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになります。
- ⚠警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があります。
- ⚠注意…その警告文に従わなかった場合、けがを負う恐れがあります。

なお、製品の故障や損傷につながる使い方に関する注意事項については、本書に【重要】の表示を用いています。

目次

- ◇安全のために必ずお守りください……①
 - 作業前
 - 農薬・薬液の取り扱い
 - 作業中
 - 作業後と保管
- ◇梱包部品一覧……③
- ◇仕様……③
- ◇各部の名称とラベル貼付位置……④
- ◇運転を始めるまえに……⑤
- ◇運転……⑦
- ◇整備と長期保管……⑨
- ◇故障と対策……⑫
- ◇保証書（裏表紙）

ASB 株式会社 麻場

〒381-8530 長野県長野市北長池 1443-2

☎026(244)1317 (代)

URL: <http://www.asaba-mfg.com>

680002240-2014.05

《安全のために必ずお守りください》

★作業前



危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は、次の項目を必ず守ってください。
 - ・燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は、火気に充分注意してください。
 - ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れしないでください。
 - ・燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料キャップは確実に閉めてください。
- ・燃料、薬液を充填後、本機を傾けると燃料、薬液がもれる恐れがあります。本機は、必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合は、自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり傾かないように固定してください。



注意

- ・次に該当する方は、この製品を使用しないでください。
 - ・酒気をおびた者
 - ・過労、病気、薬物（農薬を含む）の影響その他の理由により、正常な防除作業ができない者
 - ・妊娠中の者
 - ・満15歳未満の者
 - ・負傷中の者、生理中の女性等農薬による影響を受けやすい者
- ・作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。
- ・安全性を損なう恐れがありますので、改造しないでください。
- ・この製品を他人に貸与または、譲渡する場合は、必ず取扱説明書を添付し、よく読んでから使用するよう指導してください。

★農薬・薬液の取り扱い



危険

- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・農薬は、必ず専用の保管箱に鍵をかけて保管し、絶対に食品や食器とは一緒に保管しないでください。
- ・誤使用、誤飲の危険がありますので、農薬は絶対に別の容器に移し替えないでください。
- ・農薬の空容器は、散布液調合時に必ずよく洗い、薬品メーカーの指示に従って、その都度正しく処分してください。空容器を洗った水は、薬害のない方法で処理してください。

★作業中



- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず、危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および、停止直後のエンジン（マフラ等）は高温になっています。やけどをする恐れがありますので、不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は、人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。



※安全のための服装



- ・薬液が水道、河川、水源地、池、沼、下水等を汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった時は、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・作業中に噴口部を清掃または、交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、レバーコックを閉じて、エンジンを停止してから行ってください。
- ・ホース類は、エンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースは 40℃以下の温度条件で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

★作業後と保管



- ・前回使用した薬液が、薬液タンク、ホース、ノズルパイプ、噴口等の内部に残っていると、薬害を起こす危険性があります。残っている薬液を充分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び、機械の洗浄水は、水道、河川、水源地、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処理してください。
- ・エンジンを止めてもポンプ～ホースに圧力が残っていることがあります。この状態で接続部を取り外すと、薬液が噴き出す恐れがありますので、接続部を外す前に周囲の状況を確認し、レバーコックを開いて、ポンプ～ホース内の圧力を抜いてください。
- ・作業後は、手足はもちろん、全身を石鹸でよく洗うとともに、目の水洗いとうがいをしてください。また、作業期間中は、衣服を毎日取り替えてください。
- ・使用後は充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

《 梱 包 部 品 一 覧 》

最初に梱包部品が全部そろっているかどうか、輸送中の事故で破損している部品がないかを確認してください。もし、欠品または、破損などありましたら、製品名、型式、製造番号と共に、お買い求めの販売店にお知らせください。保証書は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は、大切に保管してください。

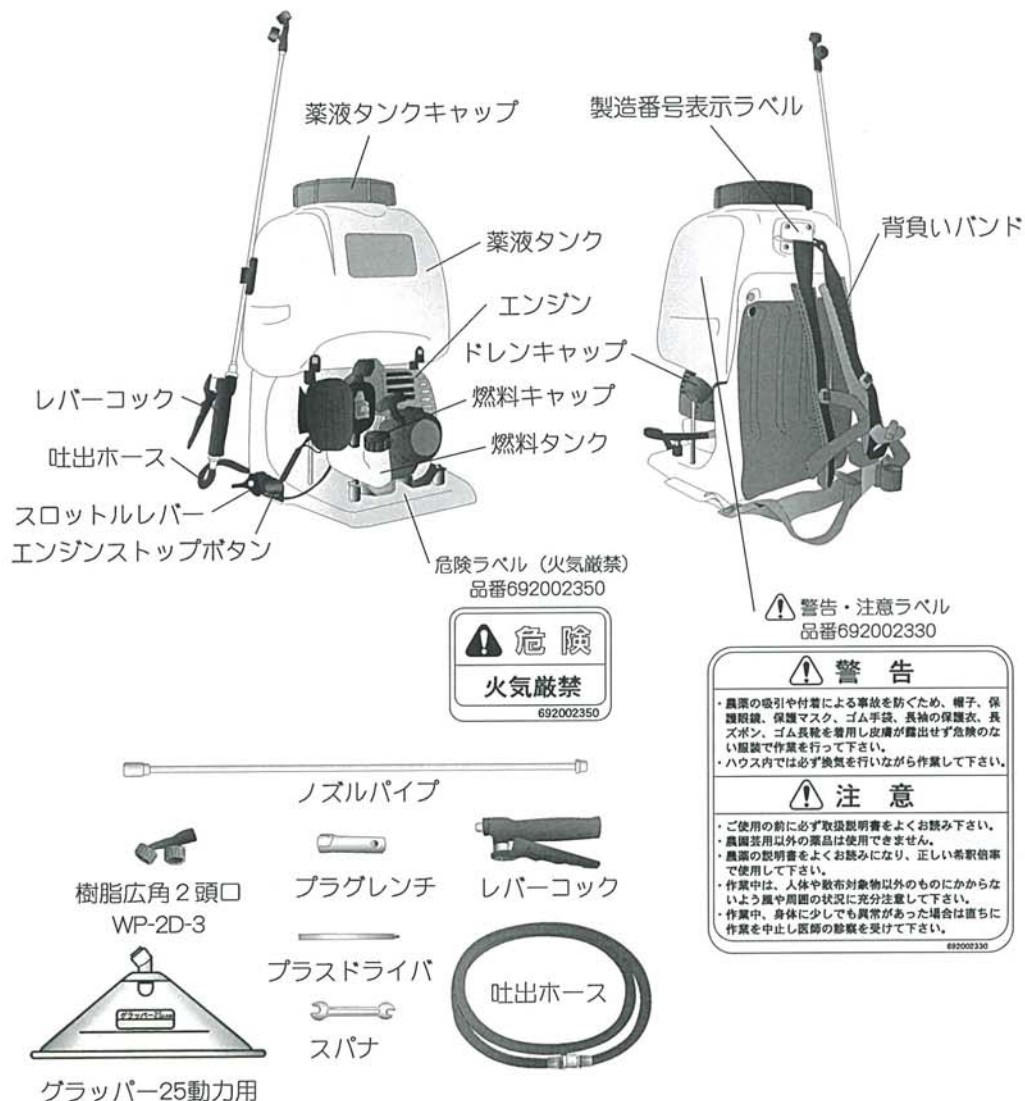
部	品	数量
プラグレンチ		1
プラスドライバ		1
スパナ		1
樹脂広角縦型2頭口WP-2D-3	G1/4	1
グラッパ-25動力用	G1/4	1
レバーコック	LC-20	1
ノズルパイプ		1
吐出ホース		1
本体部一式		1
取扱説明書(本書)		1
保証書(本書記載)		1

《 仕 様 》

型 式		EP-315A
本 機 寸 法		H565×W390×L370mm
質 量		6.8kg
薬液タンク容量		15ℓ
ポ ン プ	形 式	カスケード式ポンプ
	吸 水 量	1～9ℓ/min
	最 高 圧 力	1.2MPa
	ポンプ吸水量	2ℓ/min(0.8MPa時)
エ ン ジ ン	燃料タンク容量	0.6ℓ
	使 用 燃 料	混合ガソリン(混合比20～25:1)
	エンジン型式	ロビン EC025GA2 (ハッピースタート)
	エンジン排気量	24.5cc
	連続定格出力	0.55kW/6000rpm
	最 高 出 力	0.9kW/7000rpm
	点 火 方 式	無接点式マグネット点火
	スパークプラグ	NGK BM7A相当
始 動 方 式	蓄力式リコイルスタータ	

※改良のため、予告なく仕様を変更することがあります。

《 各部の名称とラベル貼付位置 》



- ・ ⚠ の表示のラベルが汚損したり、はがれた場合は、お買い求めの販売店にラベル名と品番を注文し、新しいラベルに貼り替えてください。
- ・ 新しいラベルを貼る場合は、汚れをふき取り、乾いた面にして、もとの位置に貼ってください。

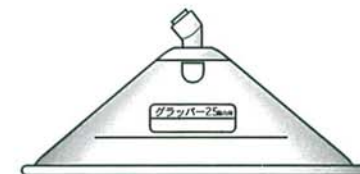
《 運転を始めるまえに 》

①部品の取り付け

- 1) 本機に付属の吐出ホース、レバーコック、ノズルパイプ、噴口の順にしっかりと組み付けてください。
- 2) 本機には標準噴口として、樹脂広角縦型2頭口WP-2D-3が付属しています。他の噴口を使用する場合は、次の性能を持つ噴口をお選びください。
※圧力：0.8MPa時に約1.8～2.5ℓ/minの範囲で吐出する噴口。
(噴口によっては性能を保証できないものもあります。)
- 3) 付属のグラッパ25動力用は、少量散布除草剤ラウンドアップ[®]専用の噴口に、目的物以外への飛散を防止するカバーを付けた噴口です。
※ ラウンドアップ[®] は日産化学工業(株)の登録商標です。



樹脂広角縦型2頭口
WP-2D-3



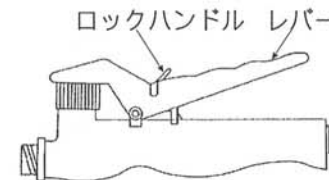
グラッパ25動力用

⚠ 注意

- ・ 作業前に燃料もれがないこと、接続部のパッキンに脱落がないこと、各ネジ部にゆるみがないこと、ホースに亀裂、摩耗、破損のないこと等、各部に異常がないことを確認してください。

②レバーコックの取り扱い

- 1) レバーを浅く握ると吐出し、離すとストップとなり断続噴霧ができます。
- 2) レバーを“カチッ”と音がするまで深く握ると連続噴霧になります。
連続噴霧の状態から、ロックハンドルとレバーを同時に握ってからはなすと、ストップの状態になります。



③薬液の調合、充填

- 1) 薬液タンク容量は、15ℓです。薬液タンク側面に5、10、15ℓの目盛りが付いていますので、充填、混合の目安にしてください。
- 2) 農薬は、他の容器で調合してください。やむをえず薬液タンク内で調合する場合は、必ず最初に水を所要量の半分ほど入れてから農薬を入れ、残りの水を入れて希釈してください。

重要

・薬液あるいは、清水を薬液タンクに入れる時は、必ず付属のストレーナを通して入れてください。薬液タンク内の薬液、清水に異物やゴミ等が混じると、故障の原因になります。

⚠注意

- ・薬液を薬液タンクに充填後、薬液タンクキャップは確実にしめてください。
- ・防除、除草用の農園芸用薬品の散布、散水用途以外には使用しないでください。
- ・調合が適切でない薬液は、作物を傷めるだけでなく、人体にも有害になる恐れがあります。薬液の調合の際は、農薬の使用上の注意をよく読み、正しく希釈してから使用してください。
- ・薬液を入れる前に、必ずエンジンを停止させ、レバーコックは必ず閉じた状態にしてから薬液を入れてください。

④燃料の充填

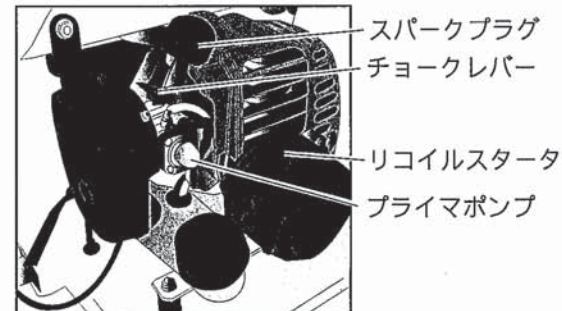
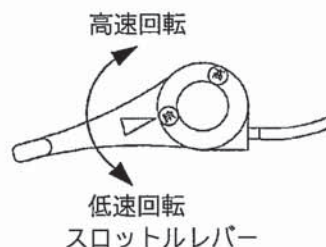
重要

- ・燃料は、必ず潤滑油混合ガソリンを使用してください。
- ・混合比は、自動車用無鉛ガソリン25に対して、2サイクルエンジン専用オイル1の割合で混合してください。エンジンの性能を充分に引き出すため、使い初めの20時間前後は、オイルを多めに入れて（ガソリン：オイル＝20：1）慣らし運転を行ってください。
- ・燃料の混合は、本体の燃料タンクで行わず、必ず別容器を用いてください。
- ・保管期間の過ぎた燃料は、使用しないでください。燃料専用容器で、日陰の風通しのよい場所に保管し、4週間以内に使いきってください。

⚠危険

- ・火災の恐れがありますので、燃料補給時は次の項目を必ず守ってください。
 - ・燃料は、エンジンを止めた状態で補給してください。
 - ・燃料補給時は、火気に充分注意してください。
 - ・高温部に燃料がかからないように補給してください。
 - ・燃料タンクの給油口一杯まで燃料を入れないでください。
 - ・燃料がこぼれたら、きれいにふき取ってください。
 - ・燃料補給後、燃料キャップは、確実に閉めてください。
- ・燃料、薬液を充填後、本機を傾けると燃料、薬液がもれる恐れがあります。本機は必要以上に傾けたり、落下させないでください。
- ・燃料、薬液を充填後、定置使用する場合や、自動車などで運搬する場合は、燃料、薬液がもれる可能性がありますので、必ず本機が倒れたり、傾かないように固定してください。
- ・衣服に燃料がかかった時は、衣服を着替えてください。

《 運 転 》



①始動

- 1) プライマポンプを、7～10回繰り返し押し押して燃料を供給します。
- 2) スロットルレバーを、高速と低速の中間程度に合わせます。
- 3) チョークレバーを、『閉』の位置にします。
- 4) 本機が倒れないようにエンジンを手で押さえ、リコイルスタータを2～3度軽く引っ張り、混合気をシリンダに吸い込ませます。改めてリコイルスタータを引っ張ると、エンジンは始動します。
※) 蓄力式リコイルの為、勢いよく引っ張る必要はありません。
- 5) エンジンが始動したら、低速回転で1～2分間暖気運転を行ってください。このとき、様子を見ながらチョークレバーを徐々に開いて行きます。暖気運転が終了したら、チョークレバーが『全開』になっている事を確認します。

重要

- ・ポンプの空運転防止のため、エンジンを始動してからレバーコックを開いて、ポンプが完全に吸水している事（霧が出る事）を確認してから、レバーコックを閉じて暖気運転を行ってください。
- ・寒い時や、エンジンが冷えている時には、チョークレバーを『全閉』にして始動します。
- ・暖かい時や、運転停止直後に再始動するときは、チョークレバーを『半開』、または、『全開』にして始動します。
- ・スタータのロープは、一杯に引ききらないでください。
- ・引いたロープは手離さないで、静かにもとに戻してください。

⚠注意

- ・防除作業以外の時は、液漏れや、突然の噴霧防止のため、レバーコックは、必ず閉じた状態にしてください。始動前に必ず確認してください。

②散布作業

- 1) 薬液タンクキャップが、確実にしまっていることを確認します。
- 2) 始動した本機を背負い、スロットルレバーを高速回転側に回します。
- 3) レバーコックを開いて散布作業に入ります。

重要

- ・散布に必要な、最低限のエンジン回転数で作業を行ってください。不必要にエンジン回転数を上げると、ポンプ、エンジンの故障原因になります。
- ・作業中に噴霧を一時停止させる時は、レバーコックを閉じ、スロットルレバーを低速回転側に戻してください。燃料の節約、エンジン、ポンプの耐久性向上に役立ちます。

⚠警告

- ・農薬の吸入や付着による事故を防ぐため、帽子、保護眼鏡、保護マスク、ゴム手袋、長袖の保護衣、長ズボン、ゴム長靴を着用し、皮膚が露出せず、危険のない服装で作業を行ってください。
- ・運転中および、停止直後のエンジン（マフラ等）は、高温になっています。やけどをする恐れがありますので、不用意に触れないでください。
- ・ハウス内での使用は、人体に悪影響を及ぼす恐れがありますので、よく換気をしてください。

⚠注意

- ・作業中に噴口部を清掃または、交換する場合は、顔面などに薬液がかかる恐れがありますので、レバーコックを閉じ、エンジンを停止してから行ってください。
- ・薬液が、水道、河川、水源地、池、沼、下水等を汚染しないように、また、人体や散布対象物以外のものにかからないよう、風や周囲の状況に充分注意して作業を行ってください。
- ・作業中、作業後にめまいや頭痛を生じたり、気分が少しでも悪くなった時は、直ちに医師の診察を受けてください。
- ・ホース類は、エンジン高温部（マフラ等）に触れないで、無理な曲げ、よじれ、折れ、引っ張りがないよう注意して作業を行ってください。
- ・ホースの温度は、40℃以下で使用してください。40℃以上になりますと、耐圧性能が低下します。

③停止

- 1) レバーコックを閉じます。
- 2) スロットルレバーを、低速回転側に戻します。
- 3) エンジンストップボタンを押して、エンジンを止めます。

重要

- ・使用中に薬液がなくなったときは、速やかにスロットルレバーを低速回転側に戻し、エンジンを停止してください。
- ・ポンプの空運転は、故障の原因になります。作業中、整備点検中を問わずに、30秒以上は行わないでください。

④使用後のお手入れと保管

- 1) ドレンキャップを外し、薬液タンク内の残液を排出します。
- 2) 薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して噴口より吐出させ、ポンプ、ホース及び、ノズルパイプ内部を洗浄します。清水が吐出しなくなったら、速やかにエンジンを停止させます。
- 3) 燃料タンクの燃料を抜いてください。燃料タンクを空にした後、プライマポンプを数回押して、キャブレタ内の燃料を抜いてください。

⚠注意

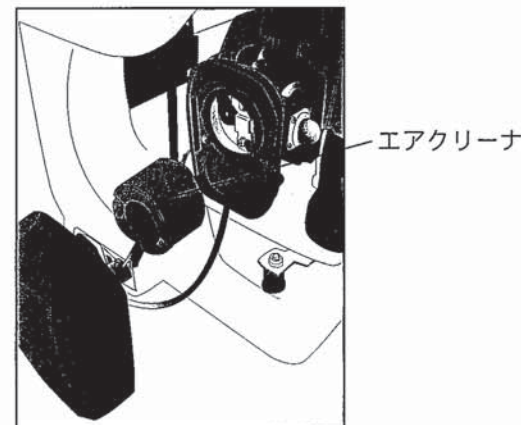
- ・前回使用した薬液が、薬液タンク、ホース、ノズルパイプ、噴口等の内部に残っていると、薬害を起こす危険性があります。残っている薬液を十分に洗い流してください。
- ・余った薬液及び、機械の洗浄水は、水道、河川、水源地、池、沼、下水等に流入して被害を及ぼさないよう、薬害のない方法で処分してください。
- ・使用後は、充分洗浄し、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

《 整備と長期保管 》

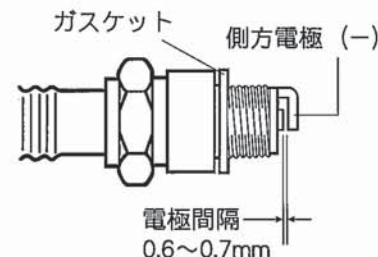
*日常的なお手入れは、《運転》の④使用後のお手入れと保管をご覧ください。
整備に関してのご不明な点は、お買い求めの販売店にご相談ください。

①整備**1) エアクリーナ**

エアクリーナ内のスポンジが汚れていると、吸気が不安定となり、エンジンの性能が充分に発揮されません。時々エアクリーナを外し、スポンジをガソリンまたは、洗油で洗浄し、固く絞ってから取り付けてください。

**2) スパークプラグ**

50時間の運転を目安に、スパークプラグの点検清掃を行ってください。ワイヤブラシ等でカーボン堆積物を除去し、電極間隔を0.6~0.7mmに調整します。著しい汚れ、欠損がある場合は、スパークプラグを新品に交換してください。指定スパークプラグは、NGK BM7Aもしくは相当品です。

**3) 配管、その他****⚠注意**

- ・タンク、ホース、接続部分にヒビ、割れ、漏れがないか確認します。異常がある場合は、速やかに交換してください。

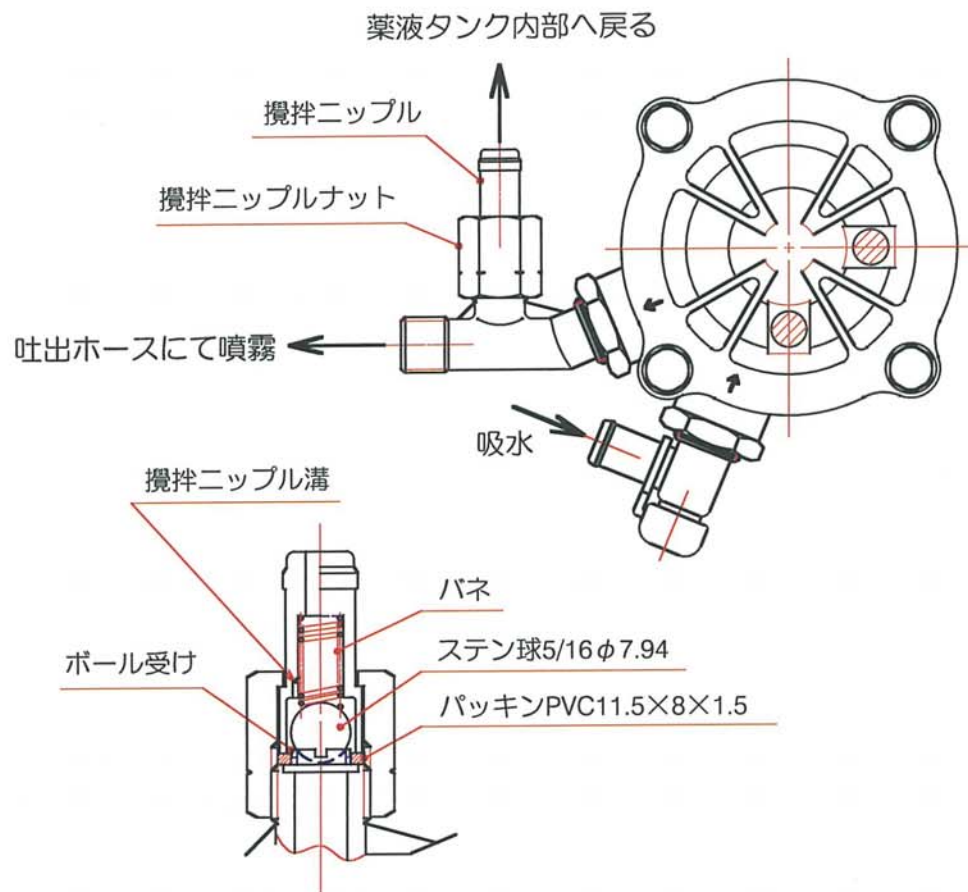
4) プリーザ

薬液タンクキャップ裏側にあるプリーザ穴が詰まると、散布時に薬液タンクがへこみ、破損する恐れがあります。時々外して、プリーザ内のプリーザ弁及び、通気穴を清掃してください。組み立ての際は、プリーザ弁の向きに注意してください。



5) 攪拌ニップル

吐出口の攪拌ニップルは、ポンプ運転中に、ポンプからの薬液の噴出により、常時薬液タンク内部を攪拌するためのニップルです。もし、攪拌が行われない時は、攪拌ニップルの内径溝が詰まっている事が考えられます。薬液を抜いた上、攪拌ニップルナットを外し、攪拌ニップルを取り出して清掃してください。

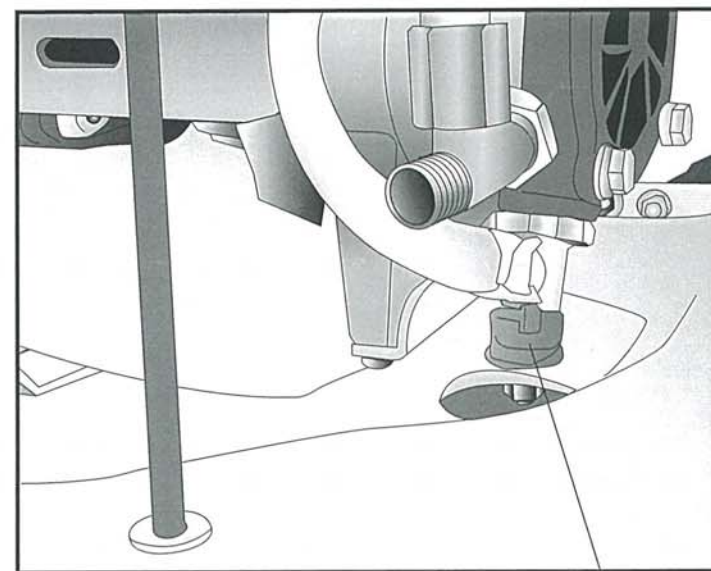


②長期保管

長期間(約60日以上)に渡って本機を使用しないときは、次の事項を実施してください。

重要

- ・薬液タンクに清水を入れ、エンジンを運転して、ポンプやホースを洗浄してください。
- ・冬期間の凍結防止のため、薬液タンク、ホース内の水を抜き、更に、ポンプ吸水側のドレンプラグを外し、ポンプ内の水を抜いてください。
- ・燃料タンクの燃料を抜いてください。燃料タンクを空にした後、プライマポンプを数回押して、キャブレタ内の燃料も抜いてください。
- ・スパークプラグを外し、スパークプラグ孔から2～3滴のエンジンオイルをシリンダに流し込みます。リコイルスタータを数回引いて、オイルをシリンダ内に行き渡らせた後、ピストンを最上点で止め、スパークプラグを付けます。
- ・プラスチック部品は、直射日光に長期間さらされると、著しく強度が低下する事があります。また、注意表示ラベルも変色したり、はげやすくなったりしますので、保管には充分注意してください。



ドレンプラグ

⚠注意

- ・本体、エンジン、ポンプの外部を洗浄し、充分に乾燥させてからカバー等を掛け、屋内の直射日光が当たらず、風通しの良い、子供の手の届かない場所に保管してください。

《 故 障 と 対 策 》

①ポンプに関する不具合はお買い求めの販売店にご相談ください。

②エンジン始動不能、または始動困難

現 象	原 因	対 策
キャブレタまで燃料が来ていない	燃料タンクに燃料がない	燃料を給油する
	プライマポンプの未操作	プライマポンプを操作する
	燃料チューブ、フィルタの詰まり	燃料チューブ、フィルタの清掃、曲がりを矯正する
	燃料タンクキャップの通気穴の詰まり	燃料タンクキャップを清掃する
スパークプラグに火花が飛ばない	スパークプラグの不良	スパークプラグを新品と交換する
	スパークプラグが汚れている	スパークプラグをワイヤブラシ等で清掃する
	スパークプラグの電極間隔が不適	スパークプラグの電極間隔を0.6～0.7mmに調整する
	スパークプラグキャップ不良、またはスパークプラグコード断線	※
	点火装置不良	※
爆発の兆候がない	チョークの開きすぎ	チョークを閉じて始動する
	キャブレタの詰まり、または調整不良	※
スパークプラグが濡れている	チョークの閉じすぎ	スパークプラグを乾燥させ、チョーク全開で再始動する
その他	キャブレタオーバーフロー	※
	マフラの詰まり	※
	燃料、オイルの不適切	規定の燃料、オイルを使用する

③エンジンの回転不調、または出力不足

現 象	原 因	対 策
エンジンが異常に加熱する	燃料不適切	正規の燃料を使用する
	冷却不足	冷却風通路、シリンダフィンを清掃する
	スパークプラグ不良	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	燃焼室にカーボンが堆積している	※

スパークプラグに飛び火花が弱い	スパークプラグ不良	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
吸、排気系の不具合	エアクリーナが汚れている	エアクリーナを清掃する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	マフラの詰まり	※

④エンジン運転中停止する

現 象	原 因	対 策
運転中、急停止する	ピストンの焼き付き	※
	スパークプラグの短絡	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整をする
エンジン回転が次第に下がり、やがて停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する
	キャブレタの詰まり、調整不良	※
	燃料内異物混入	新しい燃料と交換する
エンジン回転が急激に上がり停止する	燃料切れ、または不足	燃料を給油する

⑤エンジン停止が困難

現 象	原 因	対 策
エンジンストップボタンを押してもエンジンが停止しない	エンジンストップボタンのアース不良	配線の点検、交換をする
	スパークプラグ先端部の赤熱	スパークプラグの清掃、電極間隔の調整、交換をする 正規の熱価のスパークプラグを使用する
	ディーゼリング	※

※印の不具合対策に関しては、お買い求めの販売店にご相談ください。

その他、不明な点は、販売店にご相談ください。